

まなきへ

作文ありがとうございました。書くことはさぞ辛かったろうと思いますが、よく書いてくれました。先生は涙が止まりませんでした。職員室で誰にも悟られないように泣きながらパソコンにまなきの作文を打ち込みました。よくぞここまで打ち明けてくれたと思いました。

実はこれまでまなきの前向きな作文を目にするたびに、先生は苦しくて教師として何もできないもどかしさに呵（さいな）まれていました。「本当はもっと言いたいことがあるのではないか」と思っていました。頑張っている姿を見れば見るほど実は悲しい気持ちになっていました。自分の気持ちを周囲に察せられないように、仲間に心配をかけないように、友達に気を遣わせないようにと踏ん張っている気持ちが先生にはよくわかりました。笑顔で語っていても、瞳の奥に寂しさや辛さを抱えている感じがしていました。当然だよ。まだ中学生だもんね。

だから先生はせめてまなきの本当の気持ちを聞い

てやりたいと思いましたが。他にも同じように母親を亡くした子どもがいますが、ストレートに悲しみを表現できる子どもや体の症状になって表れる子どもはいずれ立ち直れると思っています。

ただまなきのように辛さや悲しさを押し込んで頑張る子どもはどこかで潰れないだろうかと心配になるのです。頑張り屋さんほど疲れることがあるのです。だからまなきには誰にでもいいから本音を吐露（吐き出すこと）してほしかったのです。先生にできるのはそれだけだと思ったのです。

他の先生方の中にもそう感じている先生はいます。ちゃんとまなきのことを見えていますよ。先生はストレートに悲しみを分かち合いたいと思っているので、いろんな形でアプローチしますが、みんなちゃんとまなきや他の子どもたちのことを見守っています。どんな形であれ、悲しい心に寄り添い、離れていても一緒に生きていこうと思っているのです。

それから先生はまなきのお母さんは形を変えて生きていると思います。それはね、まなきの優しさや人を思いやる気持ちの中に生きているんだよ。お母さん

がまなきの中にちゃんと生きているから、まなきは優しく強くなれているんだよ。これってちゃんとお母さんがまなきの中に生きている証拠じゃん！姿形は見えないけど、お母さんはちゃんとまなきの中にいるんだよ！だってまなきはお母さんにいろいろなところづくりじゃん！だからお母さん、そのものなんだよ！だから忘れたりほしくないんだよ。頭の中に残る記憶なんて誰だって薄れていく。それよりもまなきの優しさ、思いやり、仲間への気遣い…そういう形でちゃんとお母さんは生きているんだよ。これはすごいことだと思わないか。お母さんはちゃんとまなきと一体になっているんだよ。だから困った時は内なるお母さんに相談してごらん。必ず出口や解決策が見えてくるから。

もう少しで震災から2年目を迎えますね。記憶とは別に、まなきも先生も時間が止まったままかもしれません。でもそれは悪い意味ではありません。辛いかもしれないけど止まった時とともに、それを携（だす）さ）えて生きていかなければならないと思います。将来できるであろう新しい家族や仲間たちにこの震災のできごとをきちんと語り継いでいかなければならないと思っています。

ではまた機会があったら手紙でも作文でもいいので先生にください。できるだけ力になりたいと思います。他の先生方もみんなまなきのことを見守っていますからね。

2012. 12. 19.